衛星画像情報：（11/23～11/30）

発行日：令和3年12月7日

中央水産試験場　海洋環境グループ

太平洋沿岸では高濃度クロロフィル*a*は見られない
根室海峡の高クロロフィル*a*は赤潮によるものではない

JAXAが公開している衛星データ（GCOM-C、JASMESプロダクト）を元に植物プランクトン量の目安となるクロロフィル*a*濃度推定値の分布を示しました（図1、図2）。その結果、**太平洋沿岸では赤潮水塊と思われる高濃度のクロロフィル*a*領域は確認されませんでした。**根室～胆振の太平洋沿岸では、11/22～30の赤潮モニタリングにおいて、*Karenia selliformis*（カレニア・セリフォルミス）の出現が確認されたものの検出限界以下（< 0.1 cells/ml）が多く、植物プランクトンの主体は*Rhizosolenia*属などの珪藻類へと変化している地点が多くなっていました（11/30時点）。

また根室海峡では11月に高濃度のクロロフィル*a*が観測されましたが（図2：11/24など）、顕微鏡観察による赤潮モニタリングでは珪藻類や懸濁物が多かったことから、**根室海峡の高濃度のクロロフィル*a*はカレニア・セリフォルミスの赤潮を捉えたものではありません。**

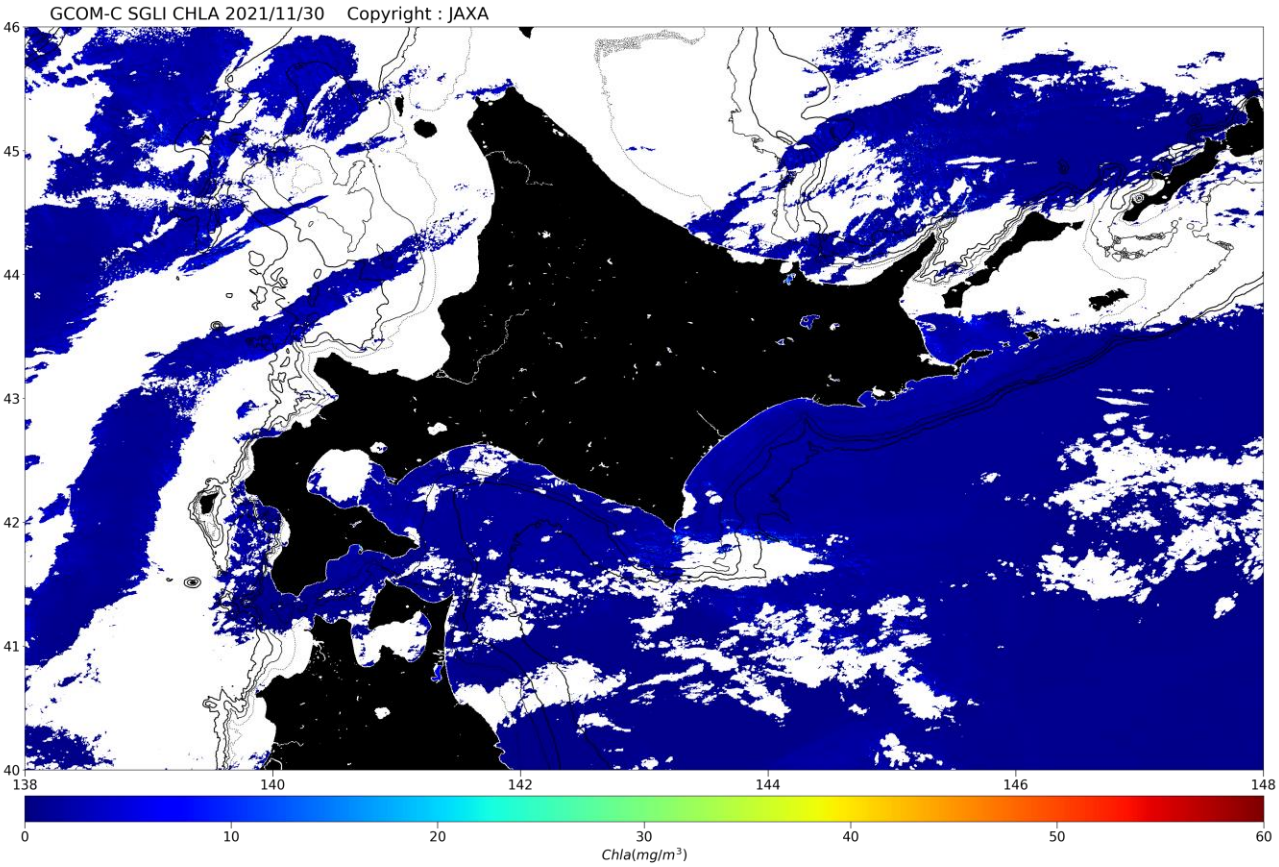


図1　2021年11月30日の表層クロロフィル*a*濃度（極端に高い領域を抽出するため0～60 mg/m³までの実数スケールに調整して作図）
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m

※注意事項

- 人工衛星の観測画像より推定されたクロロフィル*a*濃度は誤差を含むことがあり、表層のみのデータであるため、あくまでも参考値です。
- 高濃度のクロロフィル*a*領域が全て赤潮とは限りません。増殖した珪藻類などの植物プランクトンや、河川水由来の溶存有機物や懸濁物の影響で高濃度領域を形成することもあります。

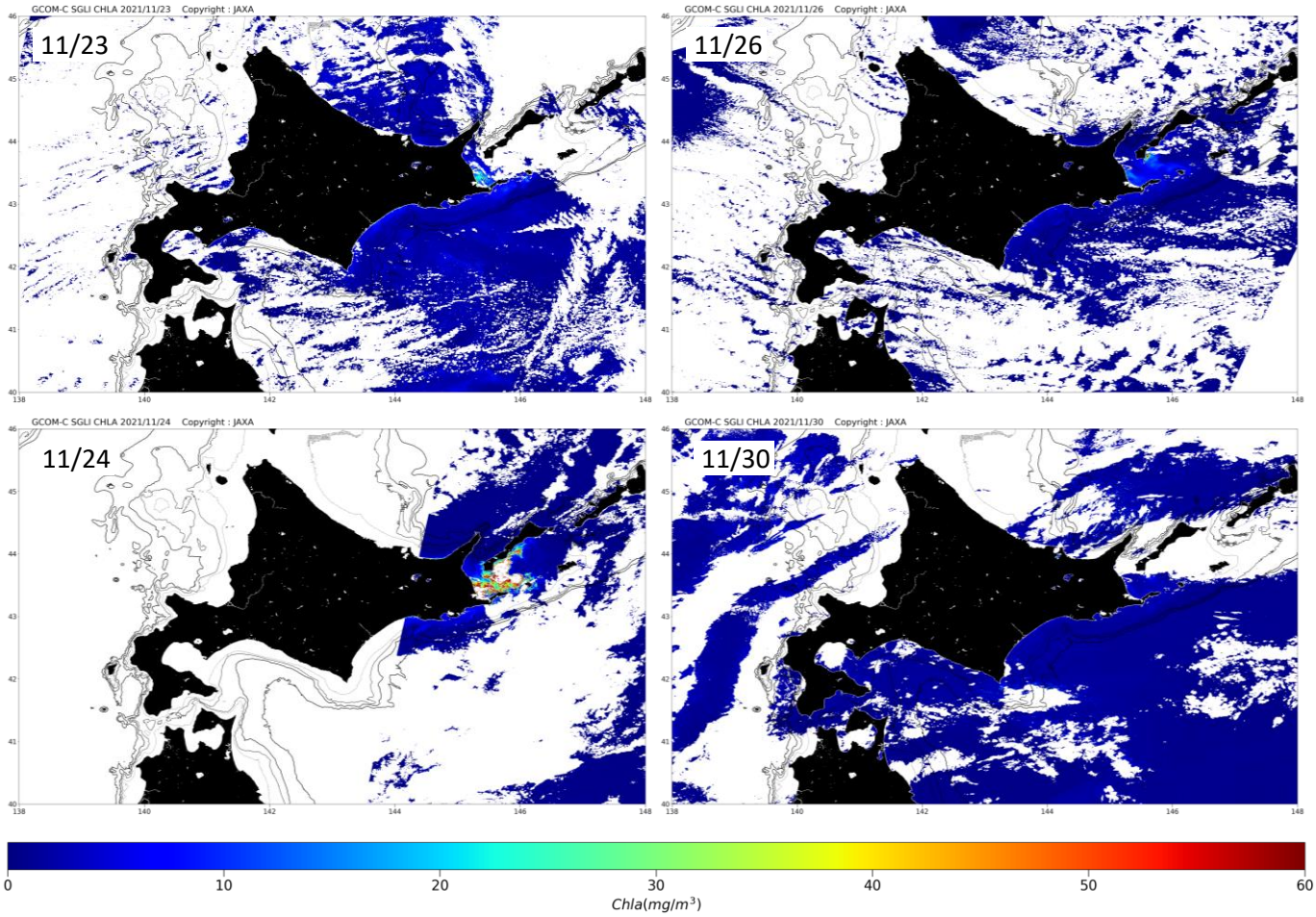
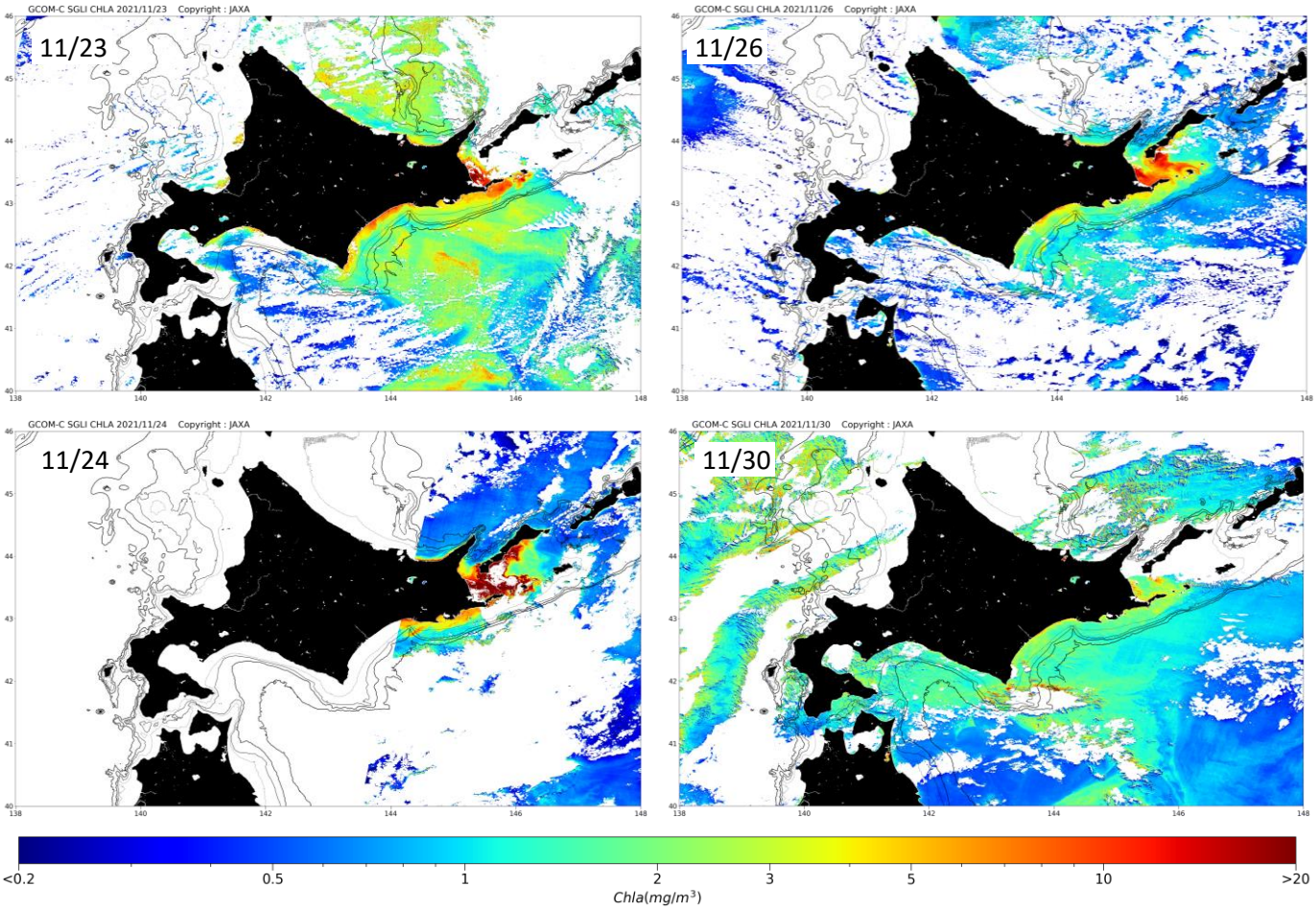
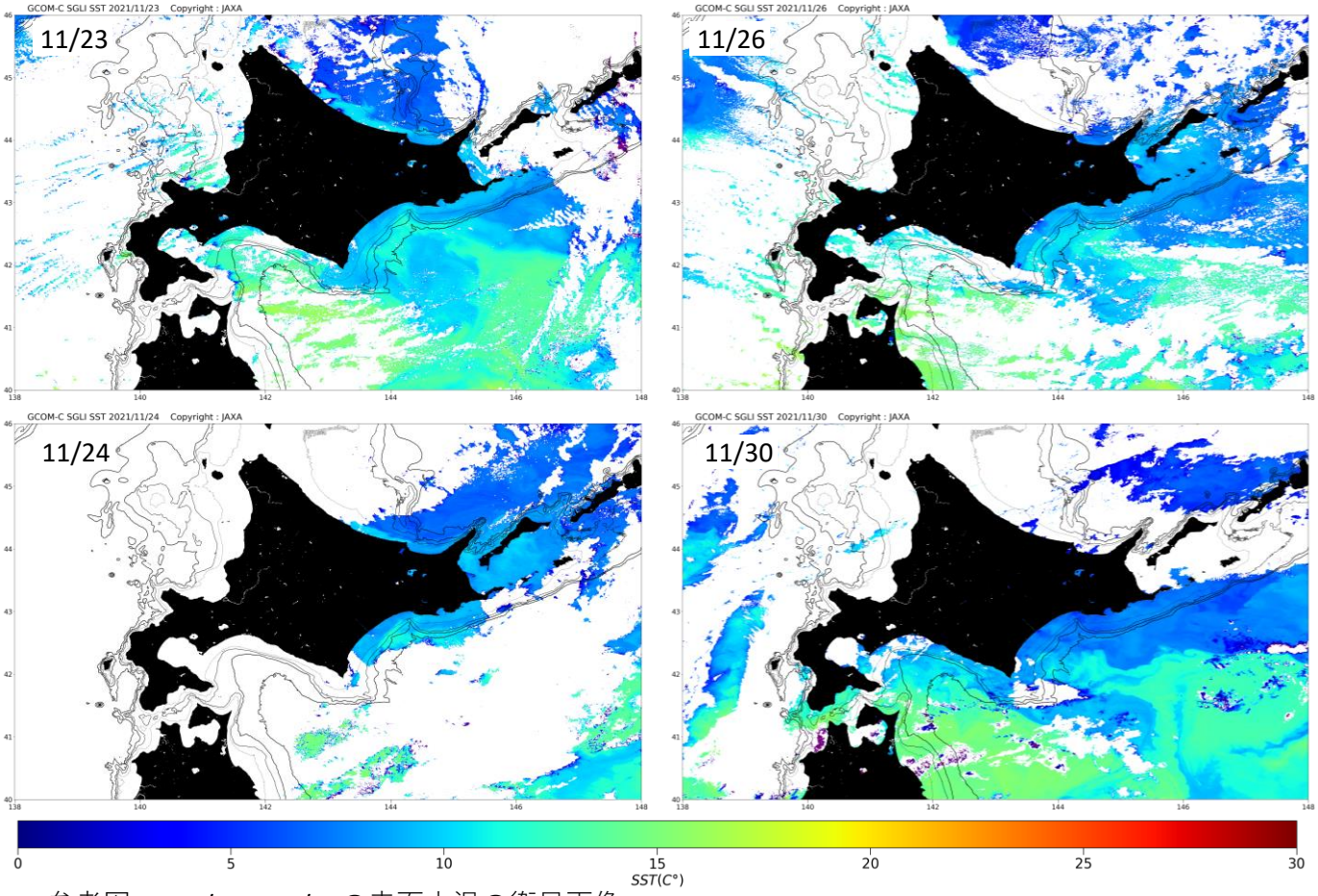


図2　11/23～11/30の表層クロロフィル*a*濃度（0～60 mg/m³までの実数スケールで作図）
等深線は100 m、200 m、500 m、1000 m



参考図1　0.2～20 mg/m³までの対数スケールで作図した11/23～11/30のクロロフィル*a*濃度の衛星画像



参考図2　11/23～11/30の表面水温の衛星画像